

堺市民のスポーツと健康に関する 市民意識調査

報告書 概要版

平成 27 年度版
堺 市

1. 調査の概要

調査目的	スポーツと健康に関する市民の意識や実践状況、施策ニーズ等を把握するとともに、過去に本市で実施した調査や国などが実施した調査の結果との比較を行い、今後のスポーツ推進施策を考える上での基礎的資料とするために実施しました。
調査対象	20歳以上の市民 男女 計5,000名 ※住民基本台帳（外国人住民を含む）から層化3段無作為抽出により抽出
調査方法	調査票を郵送し、無記名自記式で回答のうえ返信してもらいました。
調査期間	4月16日（木）から4月30日（木）まで
回収状況	発送数5,000件（うち調査票到達数 4,939件、調査票不達数 61件） 回収数1,826件（うち有効回答数 1,824件、無効回答数 2件） ※有効回答率 36.5%

【参考】過去調査の有効回答率

平成22年調査：40.4%
※郵送法
平成17年調査：41.0%
※郵送法
平成10年調査：39.0%
※郵送法
平成4年調査：58.6%
※直接配布・回収、郵送法を併用

【本資料のみかた】

- 調査結果の集計構成比(%)は小数点以下第2位を四捨五入し算出しているため、内訳の合計が必ずしも100%とならない場合があります。
- 各設問の「その他の内容」や自由回答意見で紹介した内容については、おおむね調査票に記述された原文を尊重し、記載しています。
- 今回の調査データと比較した国及び他都市の調査データの名称は以下の通りです。
 - ・文部科学省「体力・スポーツに関する世論調査」（平成25年1月実施）
 - ・大阪府クイック・リサーチ「おおさかQネット」
 - 「府民の運動・スポーツ」に関するアンケート」（平成27年2～3月実施）

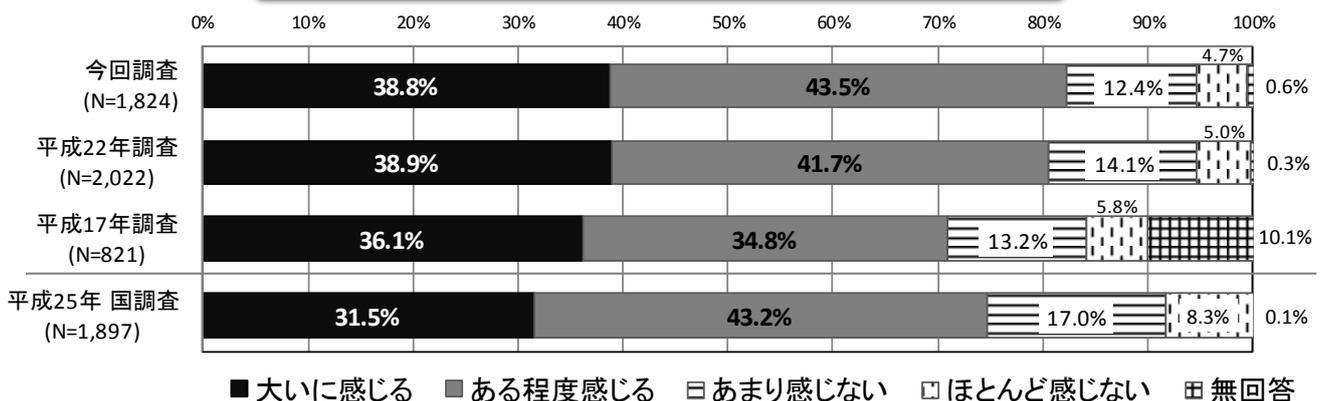
2. 運動・スポーツに対する市民の意識

①健康・スポーツに対する意識

■ 「運動不足」と感じている人が年々増加している一方で、運動やスポーツをみるのが好きな人・自分であることが好きな人は前回調査より減少傾向にある。

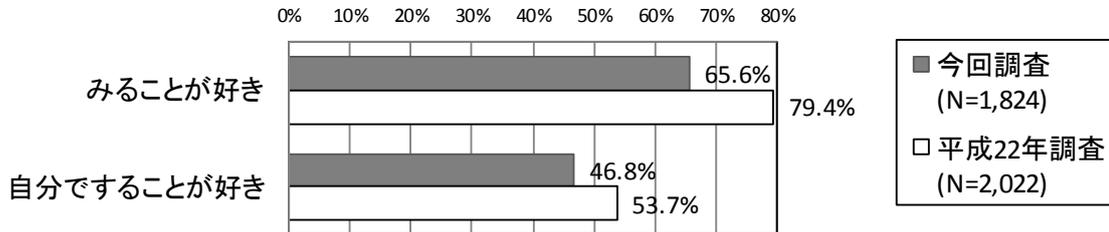
○ ふだんの運動不足度については、回を追うごとに「運動不足」を感じている人の割合が増える傾向が見られます。さらに、国の調査結果と比較しても、本市は「運動不足」と自己評価する人が高い水準にあります。

ふだんの運動不足度について(市調査推移及び国調査との比較)



- 運動やスポーツに対する印象については、運動やスポーツを「みるのが好き」と回答した人は 65.6%、「自分ですることが好き」と回答した人が 46.8%となっており、平成 22 年調査と比べていずれも少なくなっています。

運動やスポーツについての印象(前回調査との比較)



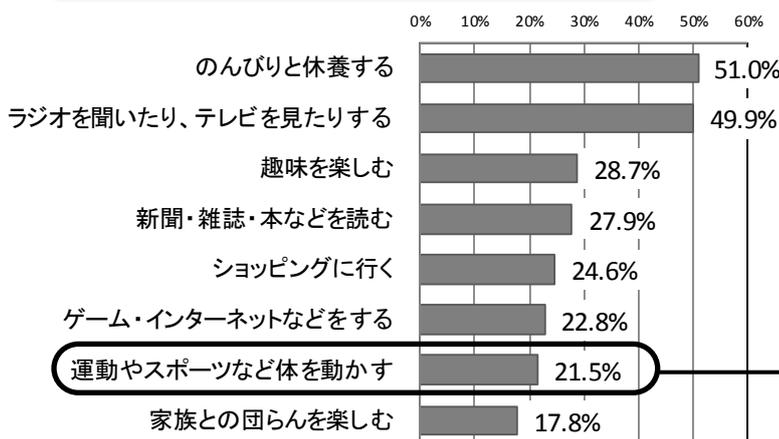
- これらのことから、市民の健康・スポーツに対する意識や関心は、前回調査よりも低い傾向にあると考えられます。

②健康・スポーツに対する取組姿勢

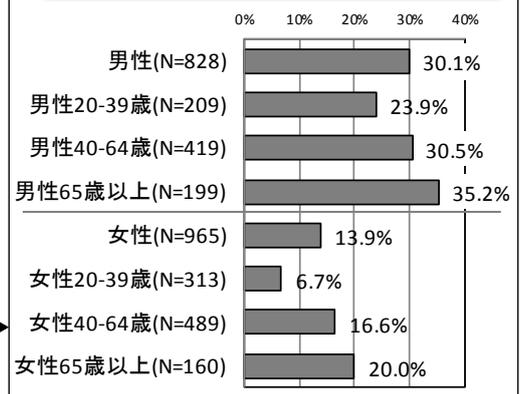
■ 好きなことができる時間(自由時間)に運動やスポーツをする人は 20%程度に止まり、健康のために運動やスポーツをする人が年々減少。日頃から意識して運動やスポーツをする人が減少傾向にある。

- 好きなことができる時間(自由時間)については、平日では「のんびりと休養する」(51.0%)、「ラジオを聞いたり、テレビを見たりする」(49.9%)が多く、「運動やスポーツなど体を動かす」は 21.5%と、前回調査(21.9%)とほぼ同じ水準です。また、女性は「運動やスポーツなど体を動かす」への回答が少なく、特に、女性 20~39 歳(6.7%)、女性 40~64 歳(16.6%)は少なくなっています。

好きなことができる時間にすること(上位8項目) (N=1,824)



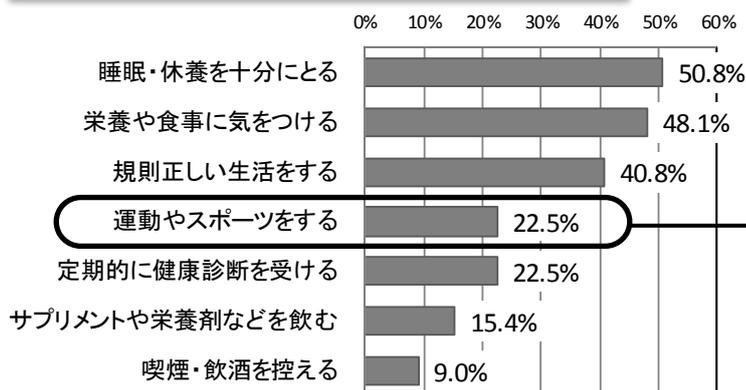
好きなことができる時間に「運動やスポーツなど体を動かす」人の割合(性別・年齢別比較)



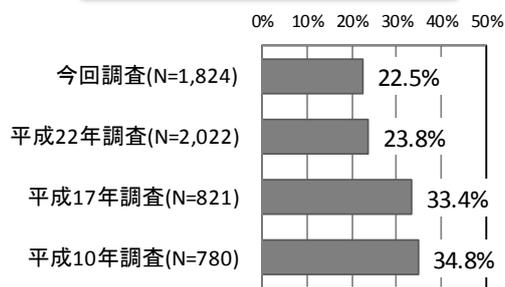
- 健康を保つために心がけていることとしては、「睡眠・休養を十分にとる」、「栄養や食事に気をつける」、「規則正しい生活をする」が 40%以上の回答を得ており多い一方、「運動やスポーツをする」と回答した人は 22.5%に止まります。また、平成 17 年調査では 33.4%、平成 22 年調査では 23.8%と、回を追うごとに「運動やスポーツをする」と回答する人は少なくなっています。

- これらのことから、日頃から意識して運動やスポーツをする人が少ない傾向にあると考えられます。

健康を保つために心がけていること(上位7項目) (N=1,824)



健康を保つために心がけていること
 (「運動やスポーツをする」への回答
 :市調査推移との比較)



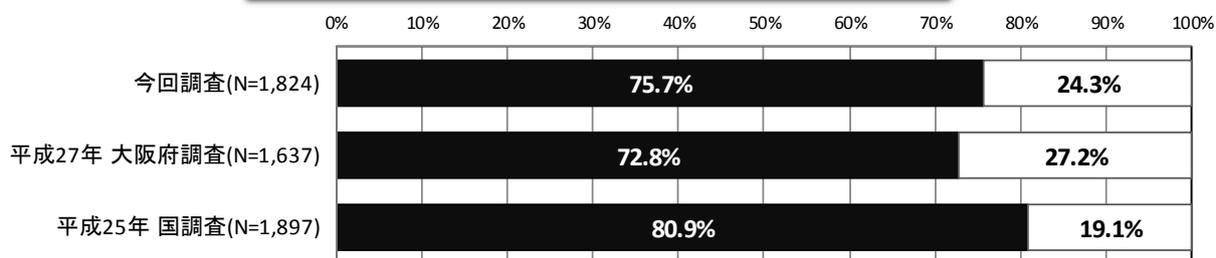
3. 運動・スポーツの実施状況、今後の取組意向

①この1年間で行った運動・スポーツ、今後行いたい運動・スポーツ

■ 1年間で何らかの運動・スポーツを行った人は75.7%。この1年間で行った運動・スポーツ、今後行いたい運動・スポーツともに、散歩・ウォーキングが最も多く、第2位は年齢・性別により異なる。

○ この1年間で何らかの運動・スポーツを行った人は75.7%となっており、大阪府の調査結果よりも2.9ポイント高い一方、国の調査結果よりも5.2ポイント低くなっています。

この1年間で行った運動やスポーツ(大阪府、国との比較)
 [運動やスポーツを行った人、行っていない人]



■ 運動やスポーツを行った □ 運動やスポーツとして行ったものはない、無回答

○ この1年間で行った運動・スポーツの種目としては、全ての性別・年齢において「散歩、ウォーキング」が他よりも突出して多くなっています。また、第2位をみると、男性20～39歳は「ジョギング、ランニング」、男性40歳以上は「ゴルフ(コース・練習場)」、女性では全ての年齢層において「ストレッチ、ラジオ体操、なわとび」となっています。

【性別・年齢別にみるこの1年間で行った運動やスポーツ】

順位	回答者全体(N=1,824)	回答率	男性全体(N=828)	回答率	女性全体(N=965)	回答率
1	散歩、ウォーキング	62.2%	散歩、ウォーキング	58.3%	散歩、ウォーキング	65.4%
2	ストレッチ、ラジオ体操、なわとび	21.0%	ゴルフ(コース・練習場)	20.0%	ストレッチ、ラジオ体操、なわとび	27.4%
3	ボウリング、ビリヤード、ダーツ	14.5%	ジョギング、ランニング	17.3%	筋力トレーニング、器具を使った有酸素運動	13.1%
4	筋力トレーニング、器具を使った有酸素運動	14.3%	ボウリング、ビリヤード、ダーツ	16.8%	ボウリング、ビリヤード、ダーツ	12.5%
5	海水浴、釣り、キャンプなどの野外活動	12.3%	海水浴、釣り、キャンプなどの野外活動	16.7%	太極拳、ヨーガ、チューブ体操、その他体操	11.2%

順位	男性 20～39 歳 (N=209)	回答率	男性 40～64 歳 (N=419)	回答率	男性 65 歳以上 (N=199)	回答率
1	散歩、ウォーキング	57.4%	散歩、ウォーキング	55.8%	散歩、ウォーキング	64.3%
2	ジョギング、ランニング	32.1%	ゴルフ(コース・練習場)	22.2%	ゴルフ(コース・練習場)	21.1%
3	ボウリング、ビリヤード、ダーツ	27.8%	海水浴、釣り、キャンプなどの 野外活動	19.6%	ハイキング、登山、クライミング	14.1%
4	筋力トレーニング、器具を使っ た有酸素運動	25.4%	ボウリング、ビリヤード、ダーツ	16.7%	ストレッチ、ラジオ体操、なわとび	13.1%
5	サッカー、フットサル	23.9%	ジョギング、ランニング	15.8%	筋力トレーニング、器具を使っ た有酸素運動	10.6%

順位	女性 20～39 歳 (N=313)	回答率	女性 40～64 歳 (N=489)	回答率	女性 65 歳以上 (N=160)	回答率
1	散歩、ウォーキング	71.2%	散歩、ウォーキング	65.4%	散歩、ウォーキング	53.8%
2	ストレッチ、ラジオ体操、なわとび	31.6%	ストレッチ、ラジオ体操、なわとび	28.2%	ストレッチ、ラジオ体操、なわとび	16.3%
3	ボウリング、ビリヤード、ダーツ	19.5%	筋力トレーニング、器具を使っ た有酸素運動	12.3%	筋力トレーニング、器具を使っ た有酸素運動	15.0%
4	海水浴、釣り、キャンプなどの 野外活動	14.7%	太極拳、ヨーガ、チューブ体操、 その他体操	12.1%	ハイキング、登山、クライミング	15.0%
5	筋力トレーニング、器具を使っ た有酸素運動	13.1%	ボウリング、ビリヤード、ダーツ	10.8%	水泳、水中歩行、アクアビクス	8.1%

○ 今後行いたい運動・スポーツの種目としては、「散歩、ウォーキング」が最も多く、次いで、「筋力トレーニング、器具を使った有酸素運動」、「水泳、水中歩行、アクアビクス」、「ハイキング、登山、クライミング」、「ジョギング、ランニング」と続きます。また、第2位をみると、男性 20～64 歳は「筋力トレーニング、器具を使った有酸素運動」、男性 65 歳以上は「ゴルフ(コース・練習場)」、女性の 20～39 歳及び 65 歳以上は「水泳、水中歩行、アクアビクス」、女性 40～64 歳は「太極拳、ヨーガ、チューブ体操、その他体操」となっています。

【性別・年齢別にみる今後行いたい運動・スポーツ】

順位	回答者全体 (N=1,657)	回答率	男性全体 (N=757)	回答率	女性全体 (N=872)	回答率
1	散歩、ウォーキング	54.9%	散歩、ウォーキング	51.3%	散歩、ウォーキング	58.1%
2	筋力トレーニング、器具を使っ た有酸素運動	25.5%	筋力トレーニング、器具を使っ た有酸素運動	27.2%	水泳、水中歩行、アクアビクス	26.3%
3	水泳、水中歩行、アクアビクス	22.0%	ゴルフ(コース・練習場)	23.6%	太極拳、ヨーガ、チューブ体操、 その他体操	26.0%
4	ハイキング、登山、クライミング	20.8%	ハイキング、登山、クライミング	21.0%	ストレッチ、ラジオ体操、なわとび	25.2%
5	ジョギング、ランニング	17.7%	海水浴、釣り、キャンプなどの 野外活動	20.1%	筋力トレーニング、器具を使っ た有酸素運動	24.0%

順位	男性 20～39 歳 (N=194)	回答率	男性 40～64 歳 (N=388)	回答率	男性 65 歳以上 (N=174)	回答率
1	散歩、ウォーキング	32.5%	散歩、ウォーキング	54.9%	散歩、ウォーキング	63.8%
2	筋力トレーニング、器具を使っ た有酸素運動	29.4%	筋力トレーニング、器具を使っ た有酸素運動	29.4%	ゴルフ(コース・練習場)	21.3%
3	サッカー、フットサル	26.8%	ゴルフ(コース・練習場)	25.3%	筋力トレーニング、器具を使っ た有酸素運動	20.1%
4	ジョギング、ランニング	25.8%	ハイキング、登山、クライミング	24.5%	ハイキング、登山、クライミング	16.7%
5	ボウリング、ビリヤード、ダーツ	23.7%	海水浴、釣り、キャンプなどの 野外活動	23.7%	水泳、水中歩行、アクアビクス	14.4%
	野球、ソフトボール	23.7%				

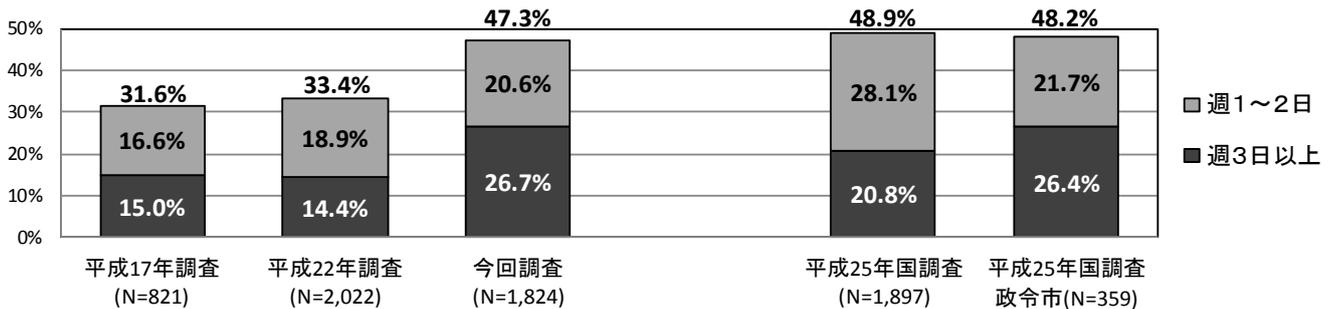
順位	女性 20～39 歳 (N=298)	回答率	女性 40～64 歳 (N=459)	回答率	女性 65 歳以上 (N=112)	回答率
1	散歩、ウォーキング	55.7%	散歩、ウォーキング	59.5%	散歩、ウォーキング	58.9%
2	水泳、水中歩行、アクアビクス	34.2%	太極拳、ヨーガ、チューブ体操、 その他体操	28.3%	水泳、水中歩行、アクアビクス	23.2%
3	太極拳、ヨーガ、チューブ体操、 その他体操	27.5%	ストレッチ、ラジオ体操、なわとび	27.7%	筋力トレーニング、器具を使っ た有酸素運動	21.4%
4	ハイキング、登山、クライミング	25.2%	筋力トレーニング、器具を使っ た有酸素運動	27.5%	ストレッチ、ラジオ体操、なわとび	19.6%
5	ストレッチ、ラジオ体操、なわとび	23.8%	水泳、水中歩行、アクアビクス	22.0%	ハイキング、登山、クライミング	17.9%

②運動・スポーツを行っている人の割合

■ 週1日以上、運動・スポーツを行った人は47.3%と前回調査より大幅に増加。実施頻度の増加、ウォーキングやストレッチ等を行う人の増加、実施時間の短時間化の傾向が見られる。

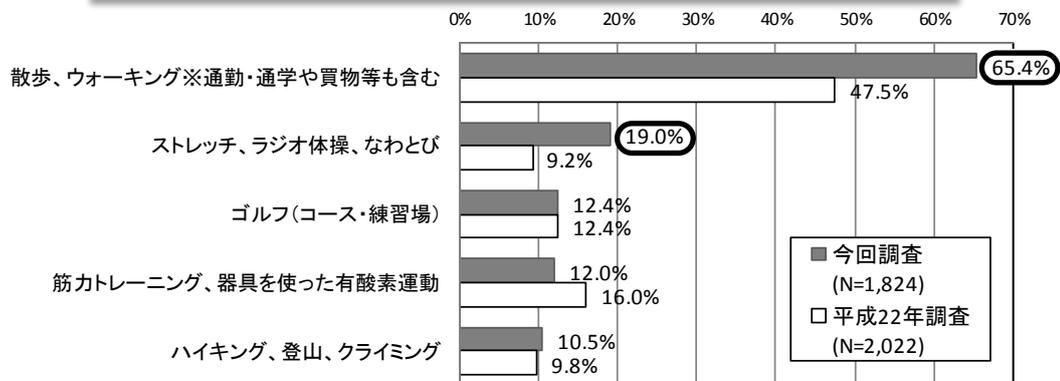
- 性別・年齢別に本市の実際の人口に当てはめた「スポーツ実施率」（成人の週1回以上運動をしている人の割合）は47.3%となり、平成22年調査（33.4%）と比べて大幅に増加しています。また、スポーツ実施率を国の調査結果と比較すると、国よりも1.6ポイント、政令指定都市の平均よりも0.9ポイント、それぞれ低くなっています。

堺市におけるスポーツ実施率（過去の調査結果や国の調査結果との比較）



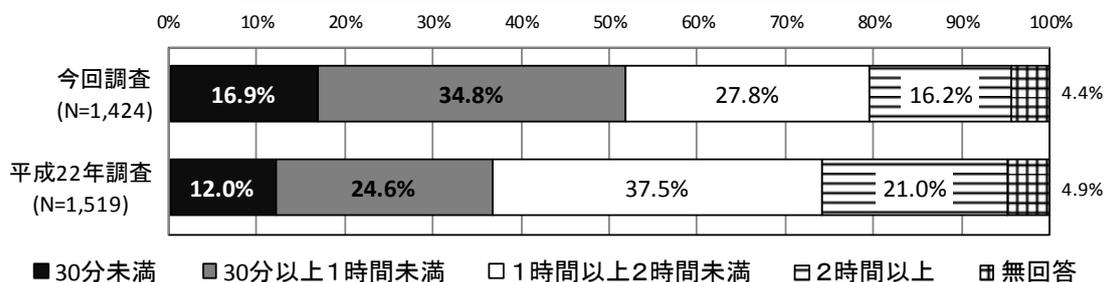
- この1年間でを行った運動・スポーツを前回調査と比較すると、「散歩、ウォーキング」「ストレッチ、ラジオ体操、なわとび」の2項目は今回調査の方が回答の割合が大きく、これらの運動・スポーツを行った人の増えたことが、スポーツ実施率の向上につながったと考えられます。

この1年間でを行った運動やスポーツ 上位5位（過去の調査結果との比較）



- 1回あたりの運動やスポーツを行う時間については、「30分以上1時間未満」が34.8%と最も多く、次いで、「1時間以上2時間未満」（27.8%）と続きます。さらに、平成22年調査の第1位は「1時間以上2時間未満」が37.5%と最も多く、今回調査の方が1回あたりの運動やスポーツを行う時間が短い傾向が見られます。

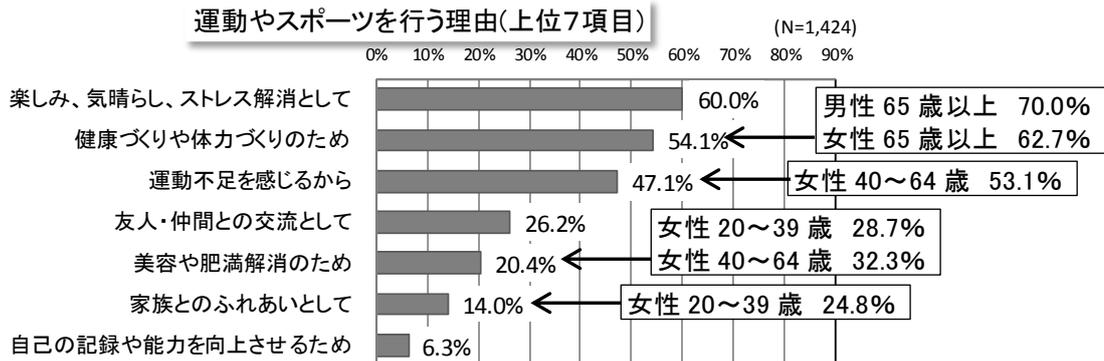
1回あたりの運動やスポーツを行う時間（前回調査との比較）



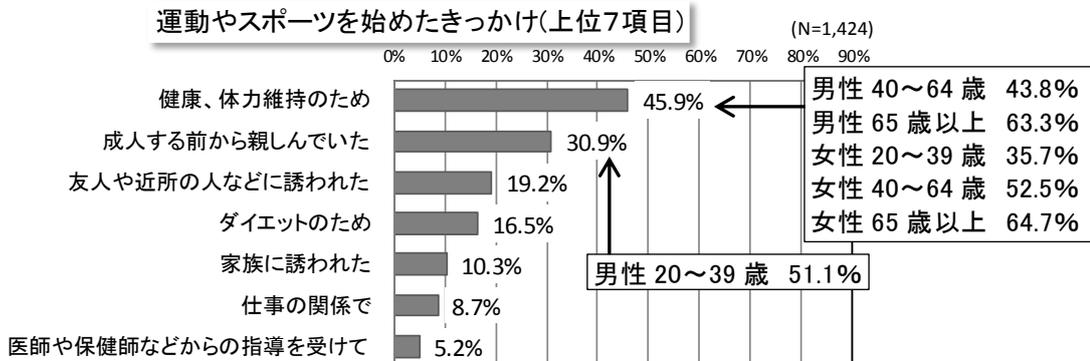
③運動・スポーツを行っている人の実施傾向

■ 運動・スポーツを行う理由は、楽しみ・気晴らし・ストレス解消、健康づくりや体力づくり、運動不足を感じるため。自分ひとりで、若しくは友人や知人、家族と一緒にいる人が多い。

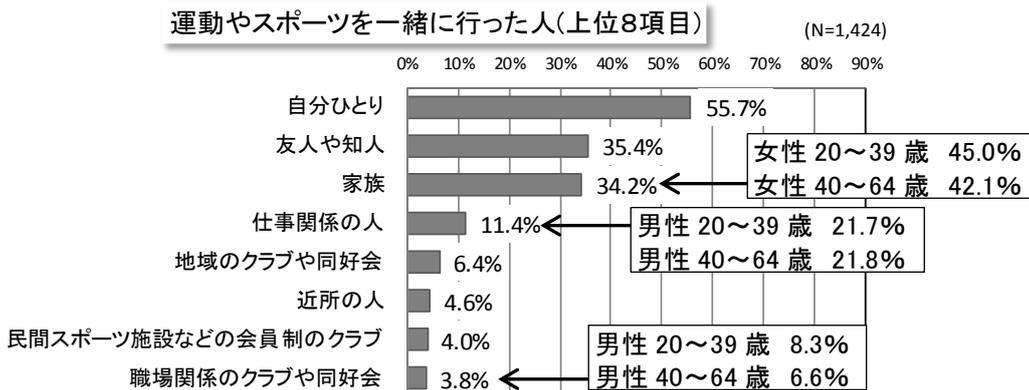
- 運動・スポーツを行う理由としては、「楽しみ・気晴らし・ストレス解消として」が60.0%と最も多く、次いで「健康づくりや体力づくりのため」「運動不足を感じるから」と続きます。また、65歳以上の男女では、「健康づくりや体力づくりのため」が第1位であるほか、「運動不足を感じるから」が女性40～64歳で、「美容や肥満解消のため」が女性20～64歳で、「家族とのふれあいとして」が女性20～39歳で、それぞれ他よりも回答が多くなっています。



- 運動・スポーツを始めたきっかけとしては、「健康、体力維持のため」「成人する前から親しんでいた」が30%を超えており、多くなっています。また、男性20～39歳では「成人する前から親しんでいた」が第1位になっています。



- 運動・スポーツを一緒に行った人としては、「自分ひとり」、「友人や知人」、「家族」が30%を超えており、多くなっています。男性20～64歳で「仕事関係の人」や「職場関係のクラブや同好会」への回答が多く、働き盛りの男性は仕事で知り合った人と運動やスポーツをする機会が多いという傾向が見られます。また、女性20～64歳では「家族」が他よりも回答が多くなっています。

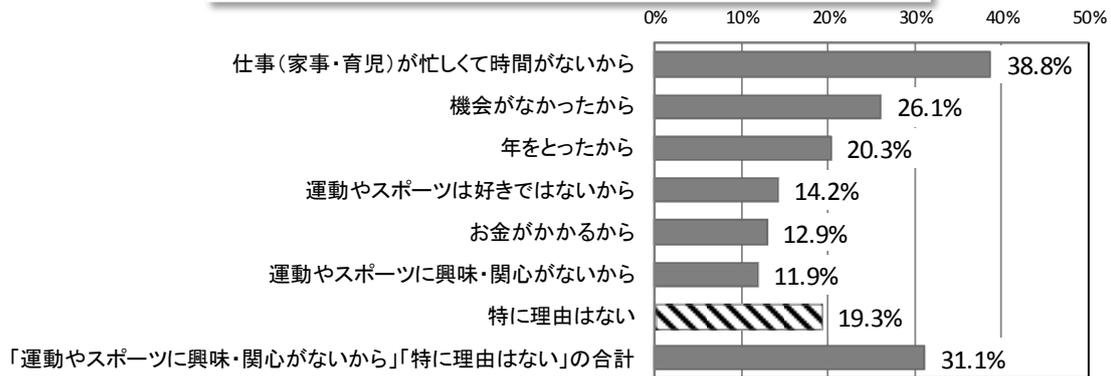


④運動・スポーツを行っていない人の運動・スポーツに対する意識及び今後の実施意向

■ 運動・スポーツに対する関心が低い人、苦手意識を持つ人が多い。今後、運動・スポーツを行いたい人は69.6%に及び、始めるためのきっかけは多種多様である。

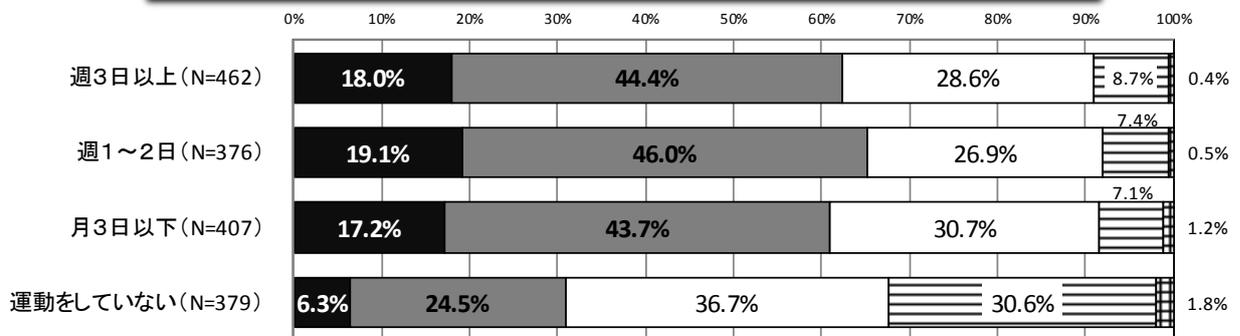
- この1年間に運動・スポーツをしなかった理由としては、「仕事(家事・育児)が忙しくて時間が無いから」が38.8%と最も多く、次いで「機会がなかったから」「年をとったから」と続きます。また、「運動やスポーツに興味・関心がないから」と「特に理由はない」の合計が30%強に及び、運動やスポーツをしない人の中には、運動やスポーツに対して関心を持たない人が多いと考えられます。

運動やスポーツをしなかった理由(回答の多かった7項目) (N=379)



- 運動・スポーツなどで体を動かすことについては、運動をしている人は60%以上が「得意」と自己評価している一方、運動をしていない人は67.3%が「苦手」と自己評価しており、運動をしている人としていない人で大きな差が見られます。

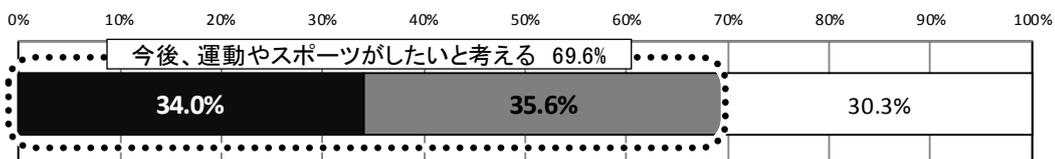
運動やスポーツなどで体を動かすことは得意か(運動・スポーツの実施日数別)



■ 得意なほう ■ どちらかといえば得意なほう □ どちらかといえば苦手なほう □ 苦手なほう □ 無回答

- 一方、この1年間運動をしていない人のうち、今後運動やスポーツがしたいと考える人が69.6%に及んでおり、実施意向がある人は多いと考えられます。また、運動やスポーツを始めるきっかけとしては、「安価に実施できるのであれば」「近場にスポーツができる場所があれば」「多種多様なスポーツ教室があれば」「時間の余裕があれば」など、多種多様なきっかけがあげられています。

今後の運動やスポーツの実施についての意向(運動をしていない人) (N=379)



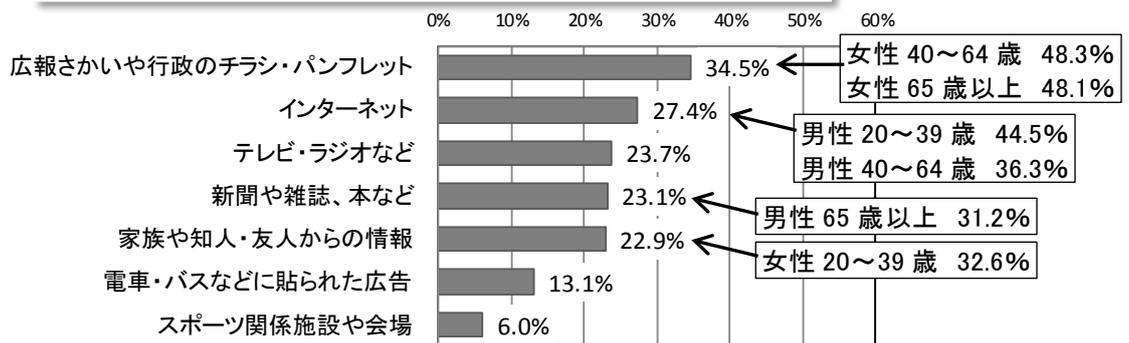
■ 運動やスポーツをしたい、または新たに始めたい ■ 運動やスポーツはしたいと思うが、今後できないと思う □ その他、無回答

⑤運動やスポーツ、健康づくりに取り組む際の情報源、知りたい情報

■ 性別・年齢別により、運動やスポーツ、健康づくりに取り組む際の情報源、知りたい情報が異なる。

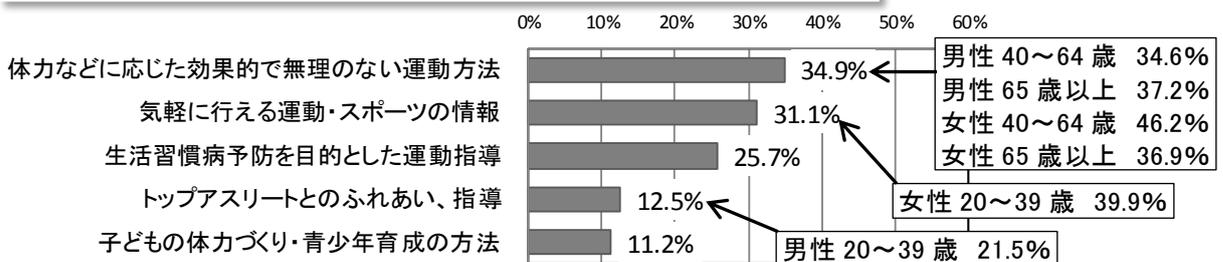
- 運動やスポーツ、健康づくりに取り組む際の情報源としては、回答者全体では「広報さかいや行政のチラシ・パンフレット」が34.5%と最も多く、次いで「インターネット」「テレビ・ラジオなど」「新聞や雑誌、本など」「家族や知人・友人からの情報」と続きます。また、女性40歳以上は「広報さかいや行政のチラシ・パンフレット」が、男性20～64歳は「インターネット」が、男性65歳以上「新聞や雑誌、本など」が、女性20～39歳は「家族や知人・友人からの情報」がそれぞれ他よりも多く、性別・年齢別により異なる傾向が見られます。

運動やスポーツ、健康づくりに取り組む際の情報源(上位7項目) (N=1824)



- 情報を得たい・講座等で学んでみたい運動やスポーツ、健康づくりとしては、回答者全体では「体力などに応じた効果的で無理のない運動方法」が34.9%と多く、次いで、「気軽に行える運動・スポーツの情報」「生活習慣病予防を目的とした運動指導」と続きます。また、男性20～39歳は「トップアスリートとのふれあい、指導」が、女性20～39歳は「気軽に行える運動・スポーツの情報」が、40歳以上の男女では「体力などに応じた効果的で無理のない運動方法」がそれぞれ第1位になっており、性別・年齢別により異なる傾向が見られます。

情報を得たい・学んでみたい運動やスポーツ、健康づくり(上位5項目) (N=1,824)

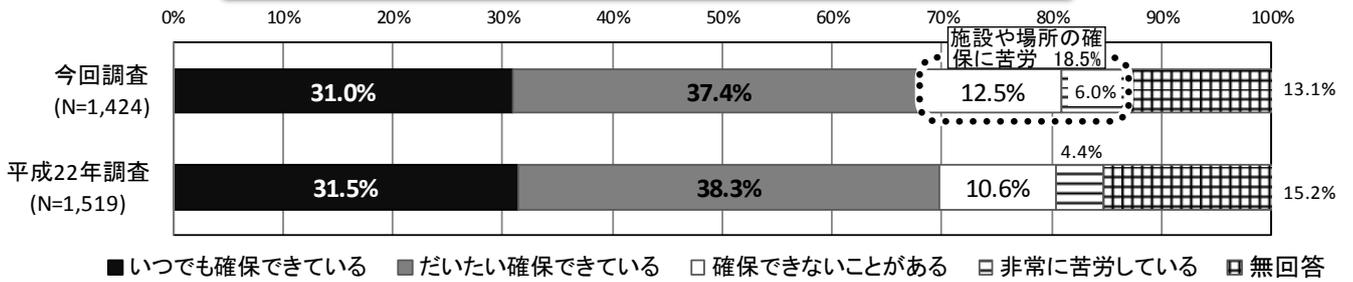


⑥運動・スポーツを行う施設や場所の利用状況

■ 施設や場所が確保しづらい傾向にあり、特に確保しづらい種目も見られる。施設や場所が確保しづらい区では、施設や場所の利用が少なく、スポーツ行事への関心も低い。

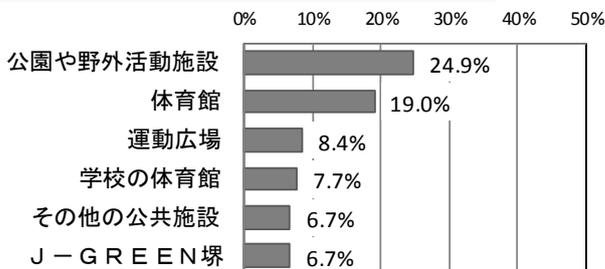
- 運動・スポーツを行う施設や場所の確保状況については、施設や場所の確保に苦労していると回答した人が18.5%見られ、平成22年調査よりも3.5ポイント多くなっています。また、運動・スポーツの種目の中では、「バレーボール、ソフトバレーボール」「野球、ソフトボール」「サッカー、フットサル」「テニス、ソフトテニス」において、施設や場所の確保に苦労していると回答した人が特に多くなっています。さらに、7区別にみると、東区で、施設や場所の確保に苦労している人が多くなっています。

運動やスポーツを行う施設や場所の確保の状況(前回調査との比較)



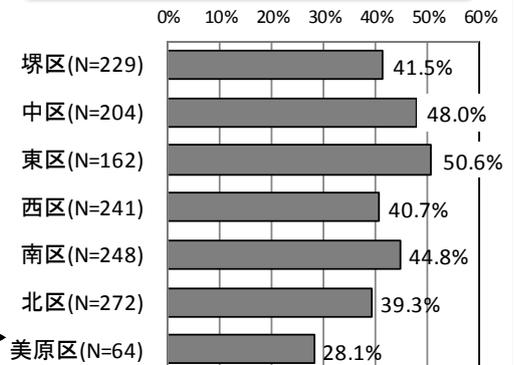
○ 利用したことのある市内の施設や場所の中では、「公園や野外活動施設」「体育館」が多い一方、「利用したことのある施設はない」と回答した人も 42.7%に及んでいます。また、7 区別にみると、東区及び中区では、利用したことのある施設はない人は 50%前後に及び、他の区よりも多い一方、美原区は 28.1%に止まり、少なくなっています。

運動やスポーツを行った市内の施設や場所 (回答の多かった7項目) (N=1,424)



利用したことのある施設はない 42.7%

市内の運動やスポーツの施設を利用したことがない人の割合(区別比較)



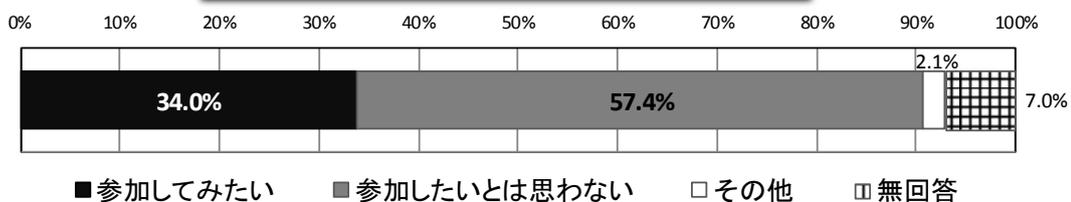
○ 参加してみたい市や区単位、町内会でのスポーツ行事については、7 区別にみると、東区で「特に参加したい行事はない」が、他よりも回答の多い傾向が見られます。

⑦各種教室やクラブ、同好会、スポーツ行事への参加意向、関心度

■ 各種教室は 34.0%、クラブ、同好会は 49.5%の人に参加意向がある。性別や年齢、就労状況により、関心のある各種教室やクラブ、同好会、スポーツ行事は異なる傾向が見られる。

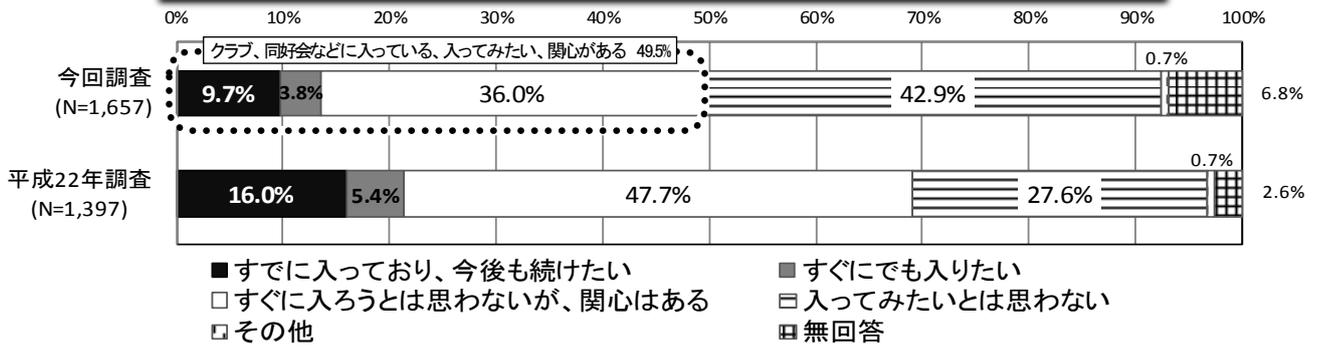
○ 運動やスポーツに関する各種教室への参加意向については、「参加してみたい」人は 34.0%に及びます。

運動やスポーツに関する各種教室への参加意向 (N=1,657)



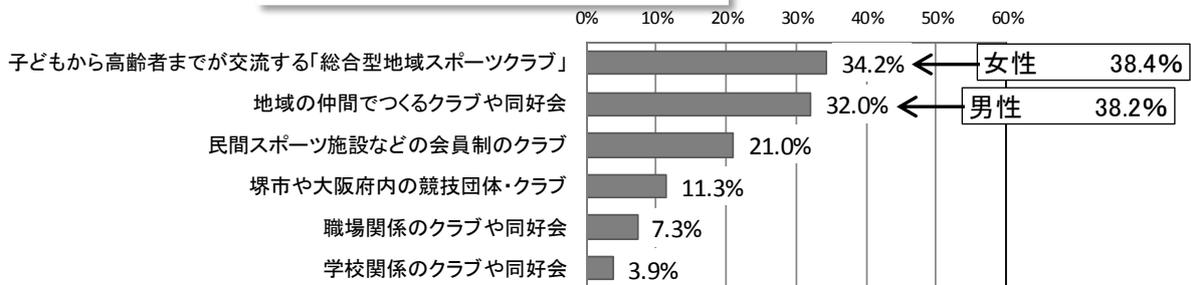
○ 好きな運動やスポーツに関するクラブ、同好会への加入意向については、クラブ、同好会などに入っている若しくは入ってみたい、関心があると回答した人は 49.5%と、平成 22 年調査 (69.1%) と比べて加入意向は低くなっています。

好きな運動やスポーツに関するクラブ、同好会への加入意向(前回調査との比較)



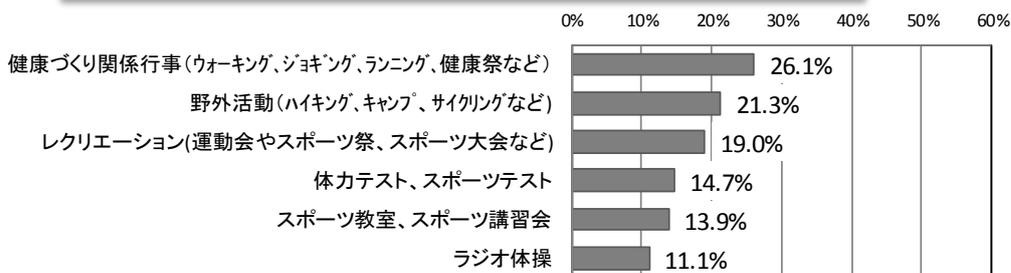
○ 関心があるクラブ、同好会については、「子どもから高齢者までが交流する「総合型地域スポーツクラブ」」が最も多く、次いで「地域の仲間をつくるクラブや同好会」と続きます。男性は「地域の仲間をつくるクラブや同好会」が、女性は「子どもから高齢者までが交流する「総合型地域スポーツクラブ」」がそれぞれ第1位となっており、性別により異なる傾向が見られます。

関心があるクラブ、同好会(上位6項目) (N=838)



○ 参加してみたい市や区単位、町内会でのスポーツ行事としては、「健康づくり行事（ウォーキング、ジョギング、ランニング、健康祭）」が最も多く、次いで「野外活動（ハイキング、キャンプ、サイクリングなど）」、「レクリエーション（運動会やスポーツ祭、スポーツ大会など）」と続きます。

参加してみたい市や区単位、町内会でのスポーツ行事(上位6項目) (N=1,824)



○ また、性別・年齢別、就労状況別といった属性別に、参加してみたいスポーツ行事はそれぞれ異なり、以下のように、複数の属性で回答の多い選択項目がいくつか見られます。スポーツ行事の企画・運営においては、それぞれのライフスタイルや行動パターンに沿った対応が望まれているものと考えられます。

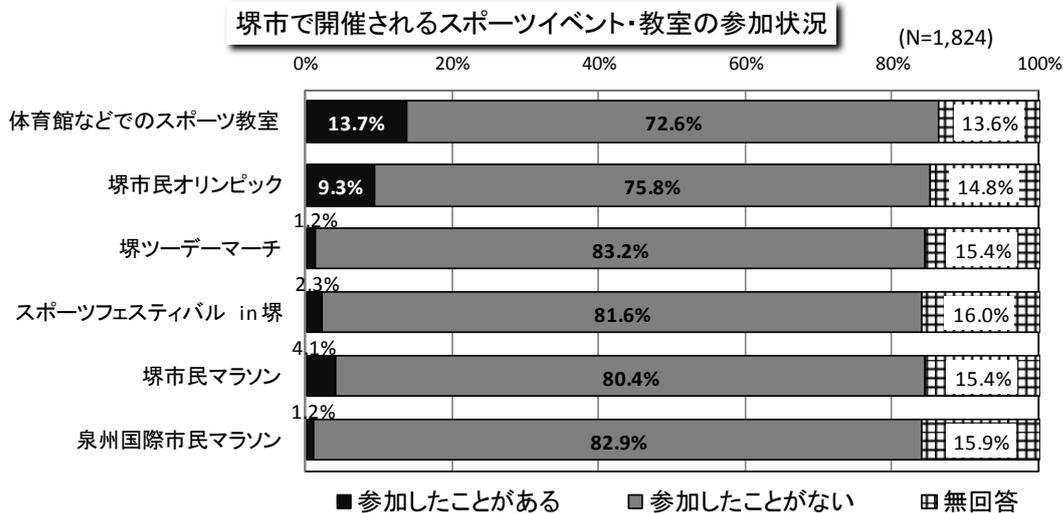
選択項目(回答者全体の多い順)	回答の多い属性
健康づくり関係行事(ウォーキング、ジョギング、ランニング、健康祭など)	40歳以上の男女/男性非就労者
レクリエーション(運動会やスポーツ祭、スポーツ大会など)	20~39歳の男女/学生
体カテスト、スポーツテスト	男性 20~39歳/学生
スポーツ教室、スポーツ講習会	女性 40~64歳/女性就労者/学生
ラジオ体操	女性 40歳以上/女性非就労者

4. 堺市における今後のスポーツ推進に向けた市民ニーズ

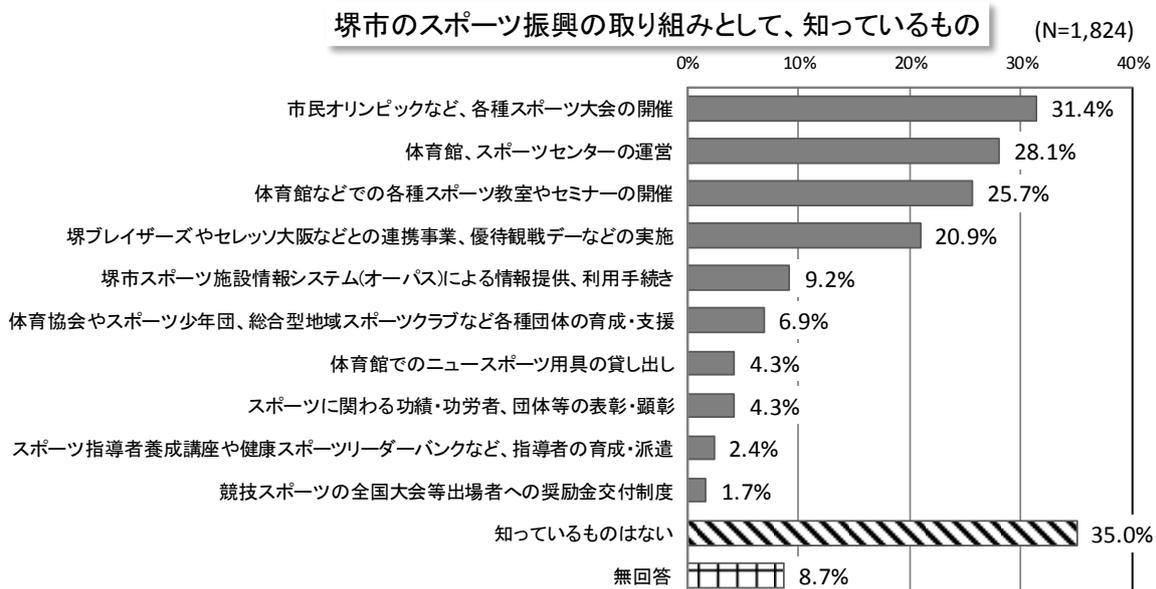
① スポーツ推進の取り組みに関する認知度、情報発信に対するニーズ

■ 本市のスポーツイベント・教室、スポーツ推進に向けた取組への認知度が低い。多様な属性に必要な情報を届けるための情報発信の充実・強化が望まれている。

- 本市で開催される主な6つのスポーツイベント・教室の参加状況について、6つの中では参加者が比較的多い「体育館などでのスポーツ教室」、「堺市民オリンピック」を除くと、参加したことがある人は5%に満たない結果となっています。また、6つのスポーツイベント・教室とも、参加したことがない理由として「開催されていることを知らない」といった回答が見られます。
- スポーツイベント・教室に対する意見としては、情報発信の強化やレベル別クラス別教室の充実、色んな人が参加できる曜日・時間の設定、近場でのスポーツイベント・教室の開催、企画の改善・質の向上などがあり、特に情報発信については、電車・バス内や駅広告、スマートフォン、SNS（インスタグラム、Facebook など）といった媒体による発信を求める意見が見られます。



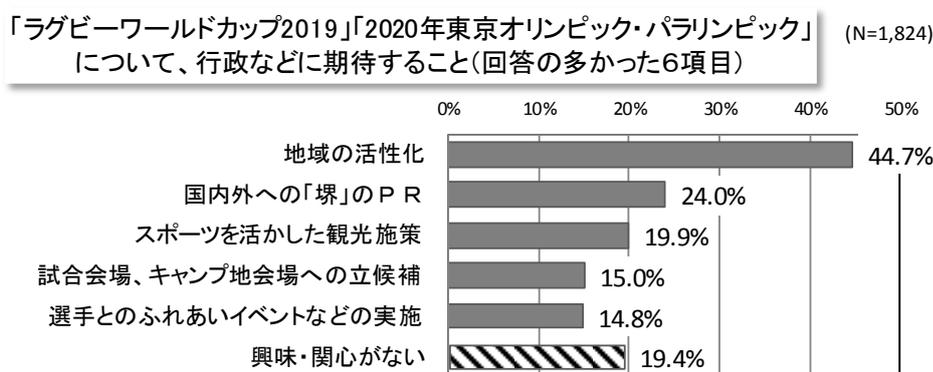
- 本市のスポーツ推進に関する取組の認知度については、最も認知度の高い「市民オリンピックなど、各種スポーツ大会の開催」でも 31.4% に止まる一方、選択項目としてあげた取組について「知っているものはない」と回答した人が 35.0% に及び、全般的に認知度は低いと考えられます。



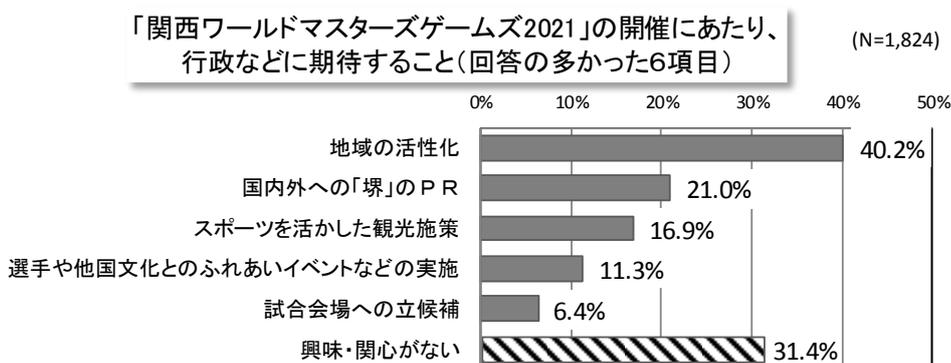
- この他に、本市の公共スポーツ施設の数と質に対する意見や、本市に対する自由回答意見の中でも、広報や情報提供の充実・強化に対する意見が複数寄せられています。これらのことから、性別・年齢別や、運動をしている人としていない人など、多様な属性に必要な情報が届くような取組が望まれているものと考えられます。

■ ラグビーワールドカップ 2019 や 2020 年東京オリンピック・パラリンピック、関西ワールドマスターズゲームズ 2021 の開催にあたっては、行政等に「地域の活性化」や「シティプロモーション」、「観光推進」を期待している。

- 「ラグビーワールドカップ 2019」「2020 年東京オリンピック・パラリンピック」の開催にあたり行政などに期待することとしては、「地域の活性化」が 44.7%と最も多く、次いで「国内外への「堺」のPR」「スポーツを活かした観光施策」と続きます。



- 生涯スポーツの世界最高峰の国際総合競技大会である「関西ワールドマスターズゲームズ 2021」の開催にあたり、行政等に期待することとしては、「地域の活性化」が 40.2%と最も多く、次いで「国内外への「堺」のPR」「スポーツを活かした観光施策」となっています。



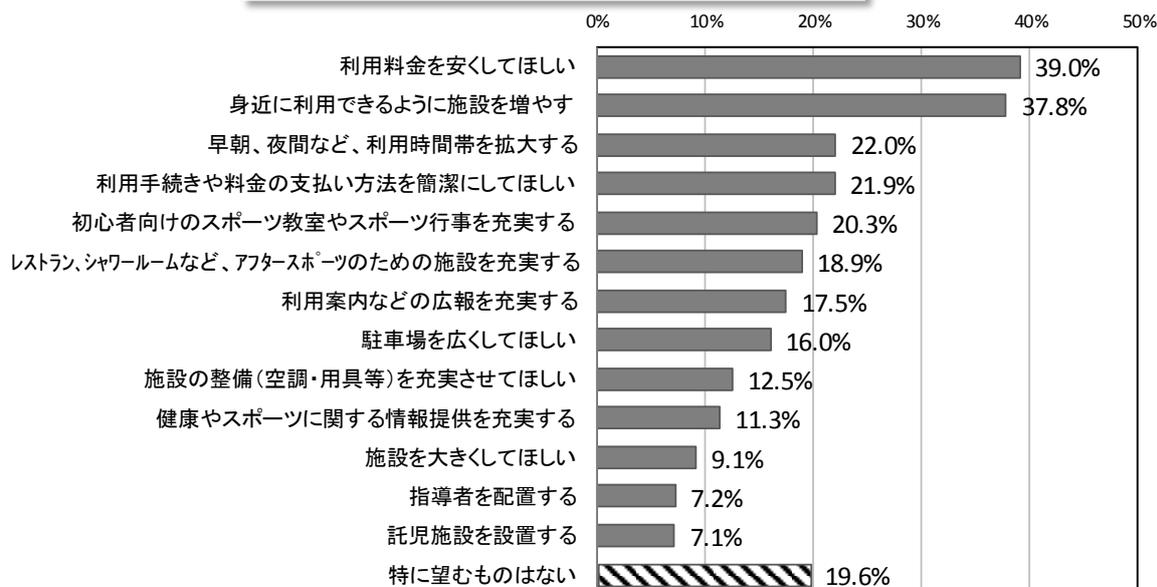
②運動・スポーツを行う施設や場所に対するニーズ

■ 属性別に、公共スポーツ施設に望むことは異なり、それぞれのライフスタイルや行動パターンに沿った施設整備が望まれているものと考えられる。

- 本市内の公共スポーツ施設に望むこととしては、「利用料金を安くしてほしい」(39.0%)、「身近に利用できるように施設を増やす」(37.8%)の2項目が他よりも多く、次いで「早朝、夜間など、利用時間帯を拡大する」「利用手続きや料金の支払い方法を簡潔にしてほしい」「初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事を充実する」と続き、多様なニーズが見られます。

堺市内の公共スポーツ施設に望むこと(選択項目)

(N=1,824)



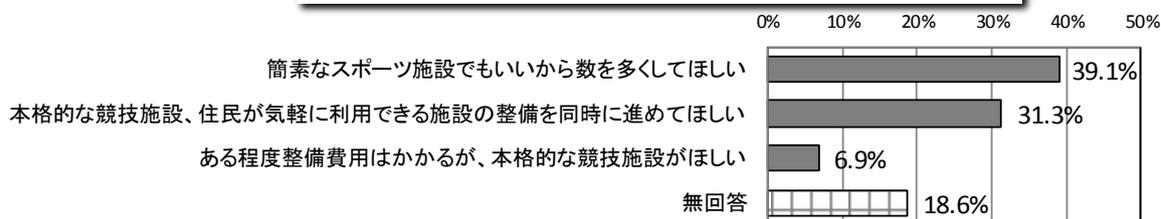
- また、性別・年齢別、就労状況別、運動・スポーツの実施状況別といった属性別に、公共スポーツ施設に望むことはそれぞれ異なり、以下のように、複数の属性で回答の多い選択項目がいくつか見られます。施設整備においては、それぞれのライフスタイルや行動パターンに沿った対応が望まれているものと考えられます。

選択項目(回答者全体の多い順)	回答の多い属性
早朝、夜間など、利用時間帯を拡大する	20～39歳の男女／男性就労者／女性就労者／学生
利用手続きや料金の支払い方法を簡潔にしてほしい	男性就労者／女性就労者／学生
初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事を充実する	女性40～64歳／女性就労者
レストラン、シャワールームなど、アフタースポーツのための施設を充実する	女性就労者／運動をしている人
健康やスポーツに関する情報提供を充実する	女性40～64歳／運動をしていない人
託児施設を設置する	女性20～39歳／女性就労者／運動をしていない人

- 本市の公共スポーツ施設の数と質についての意見としては、「簡素な施設でいいから数を多くしてほしい」、「本格的な競技施設、住民が気軽に利用できる施設の整備を同時に進めてほしい」が30%以上に及び、多くなっています。

堺市の公共スポーツ施設の数と質の充実についての意向

(N=1,824)



③スポーツ指導者に対するニーズ

■ スポーツに対する関心呼び、健康づくりのための運動指導のできる人が望まれている。

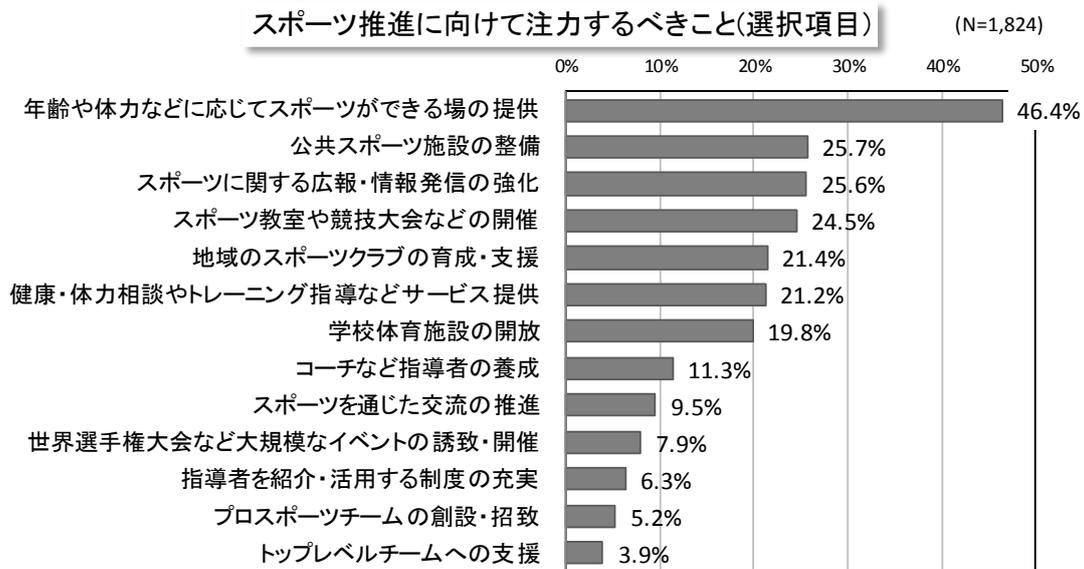
- 本市内に必要だと思うスポーツ指導者としては、「スポーツの楽しみ方や興味・関心の湧く指導ができる人」(53.9%)、「健康づくり・体力づくりの運動・スポーツ指導ができる人」(47.9%)と回答した人が50%前後に及び、多くなっています。

- スポーツボランティア活動に対する関心度については、「活動を知らない」(35.4%)や「必要性は認めるが、あまり関心はない」(21.0%)、「関心はあるが、今のところ活動する気はない」(19.4%)が多く、スポーツボランティアとして活動してみたいと回答した人は6.5%に止まります。

④今後のスポーツ推進施策に対する市民ニーズ

■ 年齢層にあったスポーツの普及、施設の整備、広報・情報発信の強化、スポーツ教室や競技大会などの開催が望まれている。

- スポーツの推進に向けて注力すべきこととしては、「年齢や体力などに応じてスポーツができる場の提供」が46.4%と他の項目よりも突出して多く、次いで「公共スポーツ施設の整備」「スポーツに関する広報・情報発信の強化」「スポーツ教室や競技大会などの開催」と続きます。



5. 自由意見回答

自由回答欄には、373人の方から、431件の意見がありました。主な内容は次の通りです。

①運動・スポーツの機会、各種教室・イベントについて [65件]

* 1人でも気軽に行けるスポーツ教室があればもっと参加しやすい など

②広報、情報提供の充実・強化について [45件]

* 堺市内のスポーツ教室の情報をもっと発信してほしい など

③スポーツ関連施設の整備・充実について [78件]

* 区ごとに同じようなスポーツ施設を整備してほしい など

④施設の運用、利用条件の改善について [78件]

* 民間フィットネスクラブのように夜遅くまで開けてほしい など

⑤スポーツに関わる人材の育成、派遣について [26件]

* トレーナーやスポーツボランティアをもっと地元へ派遣してほしい など

⑥スポーツを取り巻く環境づくりについて [107件]

* 働きざかりの人々が健康に過ごせるようなスポーツ推進策を考えてほしい など

⑦その他の回答 [25件]

* 地域やご近所との「つながり」を持つ施策が必要だと思う など

堺市民のスポーツと健康に関する市民意識調査 報告書 概要版

平成 27 年度版

編集・発行	堺市 文化観光局 スポーツ部 スポーツ推進課 〒590-0078 堺市堺区南瓦町 3 番 1 号 電話 (072) 228-7437 堺市行政資料番号：1-K4-15-0185
-------	--